

ココが聞きたい

創業50周年、今後の戦略は？

ケイティケイ社長 青山 英生氏

(あおやま・ひでお)

リサイクルトナーのケイティケイ（本社名古屋）は6月29日に創業50周年を迎えた。節目の年を機に、次の50年に向けたグループビジョン「Change the office mirai

（チェンジ・ザ・オフィス・ミライ）」を策定した。コロナ禍でオフィス環境に変革が起きている

今、どのような戦略で売り上げを伸ばしていくのか。青山英生社長に聞いた。（聞き手・中村光希）

「新しいグループビジョン「チェンジ・ザ・オフィス・ミライ」の思いは。

「（主力事業である）リサイクルトナー関連だけでなく、企業のDX（デジタルトランスフォーメーション）推進などオフィスの変革に関する仕事にも力を入

は大きく変化しました。どの企業も今のままではいけないという意識を持っていると

感じる。成長分野であるITソリューション分野を拡大し、企業の変革に踏み切る際のお手伝いをしていきたい」

「具体的には。

「現在、ITソリューション分野ではパソコンやサ

ーバーの環境設定、インターネットセキュリティ関連商品の販売などを行っている。コロナ禍で、テレワークに伴ってパソコンを移動させる機会が増えており、インターネットセキュリティへの関心が高まっている。偽メールを防止する商品をはじめとしたセキュリティ関連商品の提案を行うなど、企業が安心して売る環境づくりに貢献し、売り上げにつなげていきたい」

「コロナ禍で出張ができない分、社内でマネージメント研修や、各グループの幹部とソリューション関連の社員らで行う打ち合わせなどに時間を割いた。グループ会社同士で互いの顧客基盤の確認や、サービスメニューの検討をしっかりとできたと感じる。この効果が数字としても出てきている。今後も強化に努め、良い結果につなげたい」



「オフィスの変革に関する仕事にも力を入れていきたい」と話す青山社長

ITソリューション事業に注力